

令和 5 年度 (2023 年度)

# 自己評価報告書

学校法人巨樹の会  
小倉リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

令和 6 年 3 月 31 日

学院長 篠崎 康次

学校評価実施責任者

副学院長 橋本 知美 (令和 5 年度)

## 1. 自己評価の概要と実施状況

### 1) 自己評価の目的、方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

### 2) 自己評価委員会委員

委員氏名	所 属
篠崎 康次	小倉リハビリテーション学院 学院長
橋本 知美	小倉リハビリテーション学院 副学院長
二階堂 晴江	小倉リハビリテーション学院 作業療法学科 教務部長
秋山 嘉和	小倉リハビリテーション学院 理学療法学科 教務部長
林 輝真	小倉リハビリテーション学院 理学療法学科 教務主任
野上 愛	小倉リハビリテーション学院 事務主任

### 3) 自己評価方法

令和 5 年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目 I ～項目 X の内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

## 2. 自己評価の内容

### 1) 評定基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

S:十分に達成している。(達成度が高い)

A:達成している。(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)

B:達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)

C:達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

### 2) 自己評価の内容

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ 学校運営

項目Ⅲ 教育活動

項目Ⅳ 学修成果

項目Ⅴ 学生支援

項目Ⅵ 教育環境

項目Ⅶ 学生の受け入れ

項目Ⅷ 財務

項目Ⅸ 法令等の遵守

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

## 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

### 総括

教育理念や目的・目標は明確に定められており、専門分野の特性が反映された内容となっている。また、教育理念・目的は玄関および廊下等に掲示している。また、便覧・パンフレットに掲載するなど、学生や来訪者の目に付くところに開示することで周知を図っている。

来校する機会の少ない病院、実習施設などに対しての周知度が低いことが考えられるため、ホームページでの掲載も行っている。

### 課題

医療、福祉、介護業界などの関係業界のニーズに合わせた人材育成像を随時見直していく必要がある。

### 改善の方策

教育課程編成委員会や学校関係者委員会、実習指導者、就職先などとの意見交換を通じて、職業実践に求められる人材要件を明確にしていく。

### 小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S

■コメント

教育理念の「共生」のもと、教育目標及び人材育成像を定めており、専門分野の特性が反映された内容となっている。また教育理念・目的は玄関に掲示し便覧に掲載することで周知を図っている。

### 小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習設など）に周知されているか。

■自己評価：A

■コメント

理念・目的・目標・人材育成像の周知のために説明会を実施している。また、ホームページもわかりやすい内容へと修正を図っている。しかし来校する機会の少ない病院、実習施設などの関係者に対しての周知度が低いことが考えられるため、会議や訪問時に意見交換や説明を行っていく。

**小項目 I-3**

教育目的・目標、人材育成は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：S

■コメント

業界のニーズを常に把握しながら人材育成に取り組んでいる。今後も継続的に他者の意見を反映させていく。

**項目II 学校運営****総括**

毎年、年度初めに学院の教育方針、重点管理目標を設定している。それらを受け、各学科で管理目標を掲げ、クラス目標、個人目標を設定している。その後はPDCAサイクルを繰り返し、目標達成に向けて日々取り組んでいる。

運営会議が意思決定会議として位置付けられ、最終的な意思決定がなされている。職員の増加も踏まえ、組織体制の見直しを図り、役割分担を行なった。各役割に応じて、概ね役割分担を図ることができた。

**課題**

さらなる効率化を行うにあたり、学生ポータルサイトの活用やセキュリティ対策の強化が必要である。

**改善の方策**

情報セキュリティについて、全職員共通理解のもと、情報漏洩の防止に努める。

**小項目 II-1**

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：A

■コメント

年間目標を立て、前期・後期・通期と振り返りを行いながら運営することができている。また、教職員別に係と担当を決め、委員ごとに会議を開催し、上がってきた議案について、運営会議で決議し実行している。今後さらに委員会ごとに確認する機会を増やしていく。

**小項目 II-2**

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：A

■コメント

学生便覧、運営組織図、委員会組織図に示されている。

会議や委員会業務は定期的に行っており、議事録の回覧により情報共有を図っている。今後は全体会議等での各職員への周知を徹底していく。

**小項目 II-3**

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A

■コメント

ポータルサイトシステムを利用することにより、個人データ（基本情報・出席状況・成績状況）の情報管理を行い、閲覧・入力権限をシステム管理している。学生への連絡に関しても、上記システムを利用している。今後もセキュリティ対策に留意しポータルサイトシステムを活用していく。

**項目III 教育活動****総括**

新型コロナウイルスによる影響は軽減され、臨床実習や演習、講義はほぼ計画通りに実施できた。ICT環境が整備されていたこともあり、学内実習や遠隔講義にて対応することも継続的にできた。

授業評価としては、従来より実施してきた学生による授業評価、教員間授業評価も実施し、評価終了後に意見交換を実施して、教育内容の見直しを行なった。

**課題**

ICTシステム活用の講義は増えたが、学生の意欲や理解度にどのように変化が起きたのか、効果検証の必要がある。管理方法についても継続課題である。

カリキュラム全体の見直しやシラバスの詳細な内容を再考していく必要がある。

**改善の方策**

ICT教育、オンライン授業に関してなど、教育力向上の取組みを継続する。

**小項目 III-1**

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：S

■コメント

教育課程の編成・実施方針は学校運営会議で確認の上で策定している。

#### 小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価： S

■コメント

実践的な指導を行うために、関連病院職員の協力による実技試験を再開することができた。また、iPadなどのICT機器を活用して実技の様子を撮影し、セルフチェックを用いて、客観的な視点を導入することで積極的な学びにつなげることができた。

#### 小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価： A

■コメント

学生による授業評価や卒業時満足度の結果は概ね良好である。教員評価についてもgoogleフォームを利用したアンケートに変更し、結果を集計し分析を行った。

#### 小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価： S

■コメント

国家試験に向けた取り組みは1年次・2年次と継続して実施し、学年末テストにてその習熟度を確認している。取り組みの内容には、一部グループ学習もあるため、感染対策を施したうえで実施し、教えてもらう学習から学ぶ学習に移行できるように取り組んでいる。

#### 小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みは行われているか。

■自己評価： S

■コメント

教員の研修会や学会については、各職員の希望に基づき参加しやすい体制を整えている。今年度においても昨年同様、対面での研修は減少傾向しているが、遠隔での開催に参加している。また、5校のカリキュラム委員会において効果的な教育を実施するための講習会を年2回開催し、すべての教員が受講することを義務付けている。これにより、

教育目標からの授業設計等の基礎知識を得られるよう工夫している。

## 項目IV 学修成果

### 総括

国家試験への取り組みでは、学院長による指揮のもと、チームスローガンを掲げて定期的に集会を行い、モチベーションの維持・向上に努めた。進捗状況と目標の確認を図りながら国家試験対策を進めていくことができた。

退学者低減に向けては、こまめな面談や職業イメージを持たせるための講義を導入してみたが、退学者数の軽減には至らなかった。

### 課題

国家試験に向けて、読解力を身に着ける学習の強化が必要である。また、全教員が学生の小さな変化に気づく力、学生・保護者に対する適切な対応力を養い、教員間で学生情報の共有を図り、遅刻や欠席なども含めた学校生活・学習面・心理面での支援体制の充実ができるよう、今後も改善が必要である。

### 改善の方策

教員としての姿勢や対応方法など、研修会を行いながら強化を図る。退学理由の分析を行い、入学時の状況と照らし合わせながら、具体的な支援対策を検討する。職業イメージを持たせるための取り組み内容を再度見直す。

#### 小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価： S

■コメント

就職を希望する学生は年内で約9割の学生が内定を頂いており、就職支援体制は整備されている。系列校との合同就職説明会、学校単位での就職説明会など活動促進の機会も設けている。

就職セミナーや面接指導、履歴書指導など対策も充実しており、目標設定、管理、対策についての対応が図っている。

#### 小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価： A

■コメント

国家試験の合格率については、90%以上を維持し、全国平均を常に上回っている結果で推移している今年度は実習期間が3期に分かれ、全体の開始時期が遅いスタートとなり、学生教員ともに負担を強いる状況となっている。内容は、基礎分野が弱点となったため、次年度は、基礎分野の早期構築を図る計画が必要である。

#### 小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価： B

■コメント

成績不振による退学軽減のために、授業外のセミナーや個別指導などの取り組みを行っている。また、定期的な学生面談、スクールカウンセラーとの連携、早期より保護者への連絡や面談を実施して、就学支援、学習面や心理面の支援を行っている。しかし、退学者の数は今年度も昨年と同様に出てしまった。具体的対策として、初年次よりレクリエーションを交えた研修、学校生活に意義が持てるように交流会やイベント参加など計画する。

#### 小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価： B

■コメント

ボランティア活動などについては、就学中の社会的・経済的支援として地域の病院、介護福祉施設のアルバイト等の情報を学院から紹介して支援をおこなっている。活動実績についての評価、表彰については、職員に担当者を設けて、活動参加状況や結果の共有などを踏まえて今後検討する必要がある。

## 項目V 学生支援

### 総括

学習支援体制は昨年度よりも強化したが、複数名の退学者が出たため、学生相談体制については改善していく必要がある。

### 課題

スクールカウンセラーの利用ニーズは高くなってきているが、個別のアナウンスにとどまっている。

### 改善の方策

学生の変化をとらえるために、学生日誌などを活用していく。入学時や保護者説明会時に、スクールカウンセラー体制についての周知を強化する。

#### 小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価： A

■コメント

進路・就職支援については入学時から意識づけをするため、就職先一覧や求人情報などを学内に掲示し、またセミナー等でも学生に周知している。

#### 小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価： A

■コメント

学生面談を定期的に行い、教員間での情報共有や相談を行なっている。また、外部委託のスクールカウンセラーを月6回配置しており、教員には相談しにくいような内容の場合には教員を bypass なくとも相談できる体制を整えている。今後さらに学生の利用がしやすくなるよう改善していきたい。

#### 小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価： A

■コメント

成績低迷者や休みの多い学生に対しては、臨時的保護者面談も行っている。今年度は保護者アンケートを実施した。アンケート結果より、次年度は年間行事のお知らせを行い、保護者との連携を充実させる。

#### 小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。

■自己評価： A

■コメント

地域の高校との連携を取り、理学療法体験や作業療法体験を学院で行い、地域の学生を招いている。また、各校の部活動に出向き、怪我をしないストレッチやテーピングなどの

理学療法の指導を行なっている。

#### 小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価： A

■コメント

修学支援体制として、夜間部に学校独自の修学支援体制、災害発生や経済状況急変時の支援や高等教育修学支援金制度の認定も受け、体制の充実を図っている。

## 項目VI 教育環境

### 総括

施設の老朽化に伴い学内の改修を実施し、学生が過ごしやすい環境整備を行なった。

実習については、今年度も新型コロナウイルスの影響により、一部学内実習となったが、関連病院による全面的な協力があり、臨床実習の大部分を臨床現場で経験することができた。

### 課題

学習スペースは確保しているものの、学生個別指導や面談を行える場所が時期により不足しているため、今後検討が必要である。老朽化した備品などについては新規購入を計画中である。

### 改善の方策

学生サロンのレイアウト変更などを行なっていく。

#### 小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価： A

■コメント

施設、整備などは関係法令を遵守し、整備している。図書館と教員室を入れ替え、学習を行いやすい空間としてリニューアルしたが、学生数に対する学生の個別指導や面談を行える場所は少なく、工夫が必要である。

#### 小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価： A

■コメント

実習支援セミナーの実施、実習施設・指導者との連絡や実習前後の会議の開催など、教育体制は整えている。オンラインでの会議を活用し、連携の取り方を工夫した。

#### 小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価： B

■コメント

災害発生時の対策教育は改善の必要性がある。防災設備の点検整備は適切に行なっているが、防災マニュアルの整備と職員への周知徹底は十分ではない。

## 項目VII 学生の受け入れ、募集

### 総括

高校ガイダンス等に出向き、学校の広報活動を積極的に行なっている。また、職業イメージを持ってもらうため、実際の理学療法士・作業療法士の仕事現場への見学会も関連病院の協力のもと実施している。国の修学支援制度の要件も満たし、ホームページや文書等で周知を図っている。

### 課題

今後も引き続き広報活動を行なっていく必要がある。

### 改善の方策

学校の情報（職種内容や学校生活、就職先など）や入学試験システムについて、受験生が理解しやすい内容へと随時修正を図っていく。

#### 小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価： A

■コメント

高校ガイダンス等に出向き、学校の広報活動を積極的に行なった。また、職業イメージを持ってもらうため、関連病院で理学療法士・作業療法士の仕事現場の見学も実施している。入学後の学生の状況（在学中の生活・卒業後の就職先）を報告するため、学院長を中心として高校訪問を行い、関係性を図っている。就職先に関して学内掲示とともにホームページでも紹介し、資格取得後の就職先がイメージしやすいようにしている。他に

も、Webでのオープンキャンパスや入試など新しい取り組みも始めている。

#### 小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価： A

■コメント

就職先に関して学内掲示とともに、ホームページやパンフレットなどでも紹介し、資格取得後の就職先がイメージしやすいようにしている。

### 項目VIII 財務

#### 総括

館内の老朽化に伴う環境整備などにかかる支出も多いが、優先順位を考慮して購入計画を立てている。日報チェックも複数名で行なっている。

#### 課題

職員への財務周知に対しては、専門的な知識が必要なため、理解困難との意見もあがっている。

#### 改善の方策

今後は全職員が財務に関する認識を持つために、監査実施状況報告を行っていく。

#### 小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価： A

■コメント

財務基盤については、ここ数年入学者が増加しており、収入は安定している。

#### 小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価： A

■コメント

予算については、昨年の実績を考慮し、また今年度については適切かつ妥当な見込み額で予算案を作成している。予算で計上されている経費等の他に、経年劣化等で購入及び修繕しなければならない物品が数多くある。

#### 小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価： A

■コメント

3ヶ月に一度、会計士による監査を実施し、その指導に従って財務処理をしている。しかし、職員への財務周知に対しては専門的な知識が必要であるため、理解しづらいとの意見もあがっている。今後は監査実施状況報告を行なっていく必要がある。

### 項目IX 法令等の遵守

#### 総括

法令、設置基準等に基づき学校運営を行なっている。変更等については、会議を通して職員全体で審議を行なっている。

また、ハラスメント防止規定も設けられており研修も行なっている。

#### 課題

今後も定期的に行なっていくなど、教育活動として徹底していく必要がある。

#### 改善の方策

個人情報のみではなく情報リテラシーについても、入学時からホームルームやセミナーなどの時間を設けて説明していく。

#### 小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価： A

■コメント

法令、設置基準等に基づき学校運営を行なっている。変更等については、会議を進めながら職員全体で審議を行なっている。また、ハラスメント防止規定も設けており研修も行なっている。

#### 小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価： A

■コメント

個人情報保護について、教職員に対しては就業規則等に規定を設け、各自に「個人情報に関する誓約書」を提出させている。

学生に対しては、学生便覧等に個人情報の取り扱いに関する規則を明文化し、入学時、臨床実習前のオリエンテーション等で指導している。しかし、日々進化するソーシャルネットワークや ICT 教育の導入における情報の保護に対しては、今後も対応を検討していく必要がある。

## 項目 X 社会貢献・地域貢献

### 総括

近隣の中学校、高等学校への人材派遣（部活動支援や職業体験）などの地域貢献も行なっている。特に、部活動支援を昨年より頻繁に行った。また、ボランティアの窓口となる教員を配置し、案内の全館掲示やクラス毎へのアナウンスなどを行なった。学友会を中心に教員も参加し学院から最寄り駅周辺までの清掃活動を年に2回実施している。

### 課題

学内スケジュール、インフルエンザ等の感染拡大により外部ボランティアへ参加はできなかった。

### 改善の方策

感染状況を確認しながら適宜ボランティアへの参加を促していく。

### 小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価： A

■コメント

今年度も学院祭が中止となったため、地域との交流が行えず、研修会等の会場借用も少なかった。

近隣の中学校、高等学校への人材派遣（部活動支援や職業体験）による地域貢献は継続しているが、件数が減少し十分な活動は維持できなかった。

### 小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価： A

■コメント

ボランティア募集については、掲示板に情報を掲載しており、閲覧できる状態になっているが、コロナ禍後ということもあり、学校として積極的な支援を再開できていない。